収録Hシーン
淫獄触手洗脳1 -刻まれる淫紋-
淫獄触手洗脳2 -雲散霧消 洗脳完了-
絶対服従宣言公開オナニーショー -淫魔転生-
堕落の褒美 フェラチオ&パイズリご奉仕 -闇の肥大化-
ファーストミッション 奪精騎乗位SEX -完全変態-
贖罪のセルフ種付け出産 -悪因増悪-
悪ち
失堕ノ
くっころ
姫騎士
IRIS
第一章
淫獄触手洗脳 淫慾の隷属者誕生編

－序章－

かつて世界は、淫魔女王リリム率いる魔物たちによって支配されようとしていた
その魔の手は小国であるオルデトルにも伸びた

世界を守るため、一人の勇者が立ち上がり、オルデトル国騎士団と共に
淫魔女王リリムと戦った
死闘の末、勇者は淫魔女王リリムの討伐に成功し、世界に平和が訪れた

その後、勇者はオルデトル国の皇子と結婚し、国王となった
勇者は、周辺の国々と協力して強固な国作りに励み、オルデトルは大国となった

百年後、平和を謳歌するオルデルト国に若い娘を攫うオークが現れた
姫騎士アイリスからこのオーク討伐の命を受けた一人の騎士がオルデトル国を後にするのだった…

CHARACTER

第一章の主人公

ステータスリスト
種族：人間
体力：B+
魔力：E−
攻撃：B+
防御：B
魔法：E−
耐魔：A
俊敏：A
知識：B+

才能溢れる若き女騎士 ~ 紫月 ~

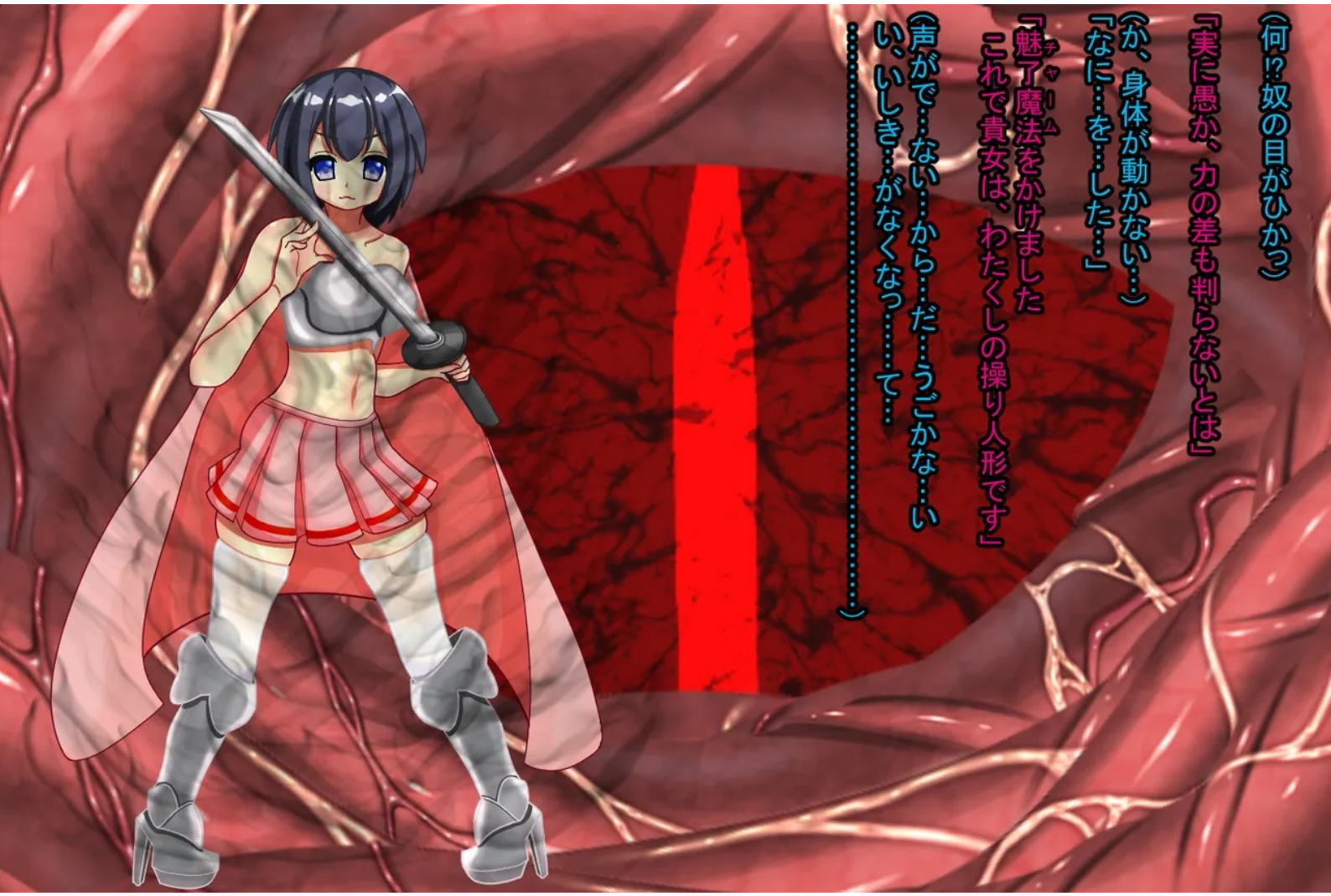
数年前に漂流されているところを姫騎士であるアイリスに助けられた異邦人。
助けられる以前の記憶は、名前以外全て失っている。
アイリスとは友人関係であり、恩人で友でもある彼女を守るため、騎士となった。
魔法は使えないが、高い耐魔力と卓越した剣の腕を持ち、オルデトル国の
騎士団の中でも屈指の実力者。また、竹を割ったような性格と最年少の
騎士団員であるということから皆に妹分として可愛がられている。

「すっかり日も暮れてしまったわ
オークの目撃情報があった場所は
この辺りなんだけど…
早く攫われた人たちを助けないと
手遅れになってしまうわ…」

「…ッ！
こんな所にこんな場所が…
いかにもって感じね
それに魔物の気配を感じるわ
オークの住みかと考えて間違いなさそうね
みんな無事でいて！
今、助けに行くから」

（中は洞窟になっていたのね
薄暗いし、魔法トラップがいたるところにあって
気が抜けないわ
こんな仕掛けは知能の低いオークには出来ない
どうやらオークを裏で操っているものがいるようね
ウッ、それにしてもこの濃い瘴気…長居は禁物だわ）
「ククッ、飛んで火にいる夏の虫ですね」
「誰!?私はオルデトル国の騎士、紫月
お前がオークを操って人攫いをしている黒幕ね
隠れていないで出てきて、正々堂々と戦いなさい！」

「ご明察、初めまして
わたくしは淫魔女王リリム
この世界の救世主です」
（触手の化け物！）
「世迷言を並べるな
淫魔女王リリムは、百年前に勇者様に倒されたのよ」
「フフッ、確かに百年前に倒されましたが
霊体となって触手の魔物に取り付き、若い娘の性を
糧に生きながらえてきました」
「それじゃ、オークに攫われた人たちは…もう…」
「ご察しのとおりです」
「絶対に許さないっ！
たとえ本物の淫魔女王リリムであったとしても…
今日、ここでお前を討つ！」


（何!?奴の目がひかっ）
「実に愚か、力の差も判らないとは」
（か、身体が動かない…）
「なに…を…した…」
「魅了魔法（チャーム）をかけました
これで貴女は、わたくしの操り人形です」
（声がで…ない…から…だ…うごかな…い
い、いしき…がなくなっ……て…
……）

「……」
「憎きオルデトル国の騎士…紫月
わたくしの魔法トラップを見抜く観察眼
瘴気に耐えることのできる耐魔力と鍛えられた肉体
剣の腕も相当なものでしょう
そして容姿も美しい
このまま始末するにはあまりにも惜しい
…決めました、貴女にはわたくしのしもべになっていただきます
オークは、醜く弱いうえに頭が悪いので、
美しく強い、そして賢いしもべが欲しかったのです
貴女との出会いは、運命のようですね
クハッ♥貴女は、わたくしの調教によって身も心も堕落し、
邪悪で淫乱な淫魔へと生まれ変わるのです
嬉しいでしょう？」
「ハイ、ウレシイデス、ゴシュジンサマ
ハヤクワタシヲチョウキョウシテクダサイ」

「ん、ここは…」
（確か…あいつの魅了魔法で意識を失って…
触手が絡みついていて…う、動けない
しかも、服まで脱がされてるじゃない）
「おはようございます、随分と無様な恰好ですね」
「くっ、殺せ！私は誇り高きオルデトル国の騎士
辱めは受けないわ」
「殺すなんてとんでもない
その貧相な躰と清い心魂を犯し尽くす洗脳調教を行い、
貴女はわたくしのしもべ…淫魔に生まれ変わるのです
そして、ともにオルデトル国を滅ぼすのです」
「ふんっ、うまくいくかしら？
私の仕えるべき主は、姫騎士であるアイリス様だけよ！
騎士の誇りにかけて、どんな責め苦にも耐えてみせるわ」
「強がる必要はないのですよ、すぐに快楽の虜になります
それでは、始めます」

「いぎツイいいいいいい――――っ、痛い！
ブチブチ突き破らないでっ！い、あぎゃいいいっっっ！
な、中が、膣が広がって子宮の奥まできてるっ！」
「やはり騎士様は処女だったのですね、最高です♥
しかし、挿れただけで潮吹きとは、幻滅しましたよ
騎士の誇りとやらはどうしたのですか？」
「あひっっ、こん、な、汚らわしいもの…なんかにっ…
ああんっ、ま、負けないいいいいイイ！」
「上の口では強がりを言っても、下の口では
触手チンポをギュウギュウ締め付けていますよ
尻穴の具合は、どうでしょうか？」

「んおほぉ～～おおおっん！
お、おじりの穴にもッ、抜き、ヌキッなさぁあいいいい！」
「尻穴も締まりがよくて最高ですよ♥
気持ちよくて、触手チンポ止まりませんッ♥」
「おほぉ――――ッ！ゴリッゴリってアソコとおしりの穴、
ほじられでぇ！ぎぃ、きもじィ――――ッ♥
き、騎士なのに、こんなのおッ、ダメなのにッ！」
「ンっ♥そろそろイってしまいそうです♥
たっぷりと淫魔ザーメンを注ぎ込んであげます♥
貴女もイきなさい！」
「ダメダメダメっぇ！なか、ながだじだめえええッッ！」

「ンアッ――――――――――ッ！
あっ、い、イッ、イッぐうううっ――――ッ！
おほぉ～っ♥子宮にあづいのがどぴゅどぴゅって
止めでっ、どめでえっ――――！」
「まだまだでますよ♥たっぷりと味わいなさい！」
「んおおおおおおっ、おほっ、オホッ、おホっッほ――――ッ♥
は、孕んじゃう！妊娠っんしぢゃうううう――ッ！
あぁ～ダメなのに、イヤなのにっ
いくっイグッイっイイいいいッグッ――――――♥
あた、頭がまっじろになりゅ、バカになっじゃうッ！
こ、これが、セックスの快感ッ♥」
「ふぅ…貴女のキツキツの肉穴、なかなかの使い心地ですよ♥
これが淫魔とのセックスです♥ご感想は？」

「んへぇっ～～～っほぉッ♥♥♥」
「嬉ションとははしたないですが無理もないありません、わたしくしの魔精液には、媚薬と魔淫子が含まれています
躰の中に出されるほど心魂は邪悪で淫乱にそして、肉体は姪猥な淫魔へと変わるのです♥
前戯はこれぐらいにして、本格的な洗脳調教を始めますまずは、性的知識を植え付け、貧相な躰を淫らで豊満なものにしてさしあげます♥」
「あはぁ～っへッ♥わだしはぁ～ッへぇ～っっ♥あへぇえぇえっ～♥んッへぇ～わだしはァ♥まッ、負げぇッないっ！」
「そうです、簡単に堕ちてしまっては面白くありませんもっとわたくしを楽しませなさい！」

「ひぎぃーーッ！耳の中にぃ、し、触手、はいっづでくりゅ！
どんどんにゃかに入ってぐりゅーーーーーっ！
あひょッーーーっ！脳みそっ！そこッ、のうみそぉっ！
ぐちゅぐちゅって、グチュグチュっていじらないでっッ！
んおおおぉっぉおおぉッ♥エッチな知識がはいってクるっ♥
ちんこ♥ぶっといオチンポ♥バッキバキッのデカマラァ♥
マンコとアナルに二本刺しいッ♥だみぇ、耐えるのよ、私はぁぁん♥
ふりふりぃ～♥魅惑の腰使い♥コリコリ乳首で下品なチクニー♥
んじゅるッ、ベロチュウゥ♥れろぉおぉんッ、フェラチオォ♥
シコシコチンポセンズリィ♥フル勃起クリトリスもシコりあげりゅ♥
欲しい！ぃらない！んほぉぢぃ！ザーメン♥子種汁♥孕み汁♥
こんなの！知りだくないのっ！でも気持ぢいいのぃいぉんッ♥」
「アハァ♥その平らな胸も淫魔らしいものしてあげます♥」

「おほほぉっ！今度はおっぱい♥
おっぱいに触手おちんぽキター――ッ！
乳首いっ♥乳腺っん♥もっとほじほじしてぇっ♥
おっぱいを犯されるのもきもじいいいいいっ♥
もっともっとほじっでこねくりまわじでぇっ♥
まんこもアナルもほじほじ拡張工事進行中ッッ♥
触手チンポ膨らんでっ…きた！キタっッ♥
またくるくるっ！クルッウ――――ッッ♥
くっっさぃ淫魔ザーメエエンんんんッ♥」
「イきますよ♥しっかり受け取りなさい！」

「デ――――――――――――――ッッッ！
来た、キタッ、きたぁあああああああああっ――――ッ！
イいっっっっっっっっツグウッ――――――――ッ♥
子宮うッ♥ケツ穴♥おっぱい♥のうみそッづっっっ♥
熱い、あじゅいいいいいいいっ！あづいあづいあづいの！
もうぃっぱい、満タンなのッ！はれづッ、爆発しぢゃうッ！
きもじい♥ぎもぢい♥んぎもちい～～～ッ♥
あッ、あああああああぁっア、イグっ♥
いぐいうぎうぐいぐぎうイッッッグ～～～～～～～～ッ♥♥」

「アハハハハッ、ボテ腹ザーメンタンクの完成です♥
魔淫子の効果でむちむちでドスケベな身体に
髪も伸びてわたくし好みのメスらしくなりました♥
ぶっとい触手チンポをがっちりくわえ込んで離さない
ドスケベ女です♥」
「おおおうっおうァ♥ひゃへへっへえぇ♥
い、淫魔ジャーメンウ、五臓六腑に染み渡りゅ～～♥
はぁ～あぁぁあンゾッ♥」
「ふぅ♥一滴残らず、淫乱騎士まんこに精子を
搾り取られてしまいました♥
それでは触手チンポを抜いて差し上げます
ンッ♥」

「おッ、おっへぇっえええええっほぉほほんっ♥
ズリュって乱暴に触手おちんぽ抜けてイグイグッ♥
おおぉおぉう！キタッキタァアアアッ♥
マンコとアナルかりゃ、ぶりぶりチンポミルク止まりゃないっ♥
おっぱいからもシャセイ♥射精しぢゃってるっ♥
ぶびゅるびゅーびゅーーーッ♥ぶりゅぶりゅ～♥
きもちぃ、ぎもじいいんっ♥気持ぢいいのおっ♥
またすっごいのくりゅ♥きぢゃうの♥
女なのに射精アクメでイグッーーーーーーーッ♥」

「アヘッ～～～～～～～～～～ソッ♥」
「淫魔の証である淫紋が刻まれました
今の貴女はもう人間ではなく半淫魔です♥
これからはわたくしの触手チンポを自ら求め、
貪るようになるでしょう
所詮は、淫欲に溺れる卑しいメスだったということですね」
「おおぉぉおお、ぢんぽォオッ♥♥♥」

「わ、私…な、おっぱいがこんなに大きく
お、重い、躰の肉付きも良くなって…髪も伸びてる
それにお腹の模様は、一体何なの？」
（うっ、躰中が火照って…疼く！触手チンポ♥オチンポ欲しい♥
何を考えてるの、しっかりしなさい！）
「それは淫魔の証である淫紋です
ですが、貴女はまだ半淫魔…
その淫紋が完成した時、貴女は完全に淫魔へと身を堕とし、
私の眷属、しもべとして生まれ変わるのです」
「ふ、ふざけないで、嘘よ、私が半淫魔？
私は人間よ、誇り高きオルデトル国の騎士
アイリス様を、みんなを守る騎士なんだから！」
（ちんぽ♥チンポ♥オチンポッ♥触手おちんぽぉんっ♥
ダメ、躰も心も触手おちんぽをほしがってる）

「嘘ではありません
その証拠におまんこやアナルといった性器はもちろんのこと、
躰中が切なく疼いてわたくしの触手チンポを
求めているのでしょう？」
「くっ、そ、そんな訳ないでしょ」
（リリムの触手おちんぽ♥濃ゆいザーメンッ♥ほ、ほじいっ♥
何を考えてるの、欲望に流されてはダメッ！
心頭滅却すれば火もまた涼し！心を落ち着かせるのよ）
（フフッ、もうひと押しのようですね
半淫魔となった貴女の感度は、人間だったときの数百倍、
その躰でいつまで耐えられるのか見ものです）
「いいでしょう、さらに魔精液を注ぎ込んで
貴女の本性を暴いて差し上げます」

「ち、違っ、わだしはみんなっ！平和を守る正義の騎士ッ！
おるでとる国のぉ！アイリス様のぎじなのっっ！
メスブタッ♥なんかじゃない！
触手おちんぽ様になんか屈しないぃ！」
「ほら、どうしたのですか？
貴女の正体は正義の騎士などではなく、
突っ込まれればよがり狂うだけのただのメスブタです」
「ひいイッ――ヘッ♥アッツツヘッ――――ッ♥
メス穴と糞アナッ♥極太触手ちんぽぉ♥二本差しイッ！
ちんぽ、ズッ♥乳首マンコにもぶっ刺されで、イグイグイっぐっッ♥
オホッ、おっっほひょぉ――――――――――ッ♥」

（自ら淫語を発していることにも、気が付いていないようですね
たわいもない、この射精で完全に堕としてさしあげます）
「大好物の魔精液を受け取りなさい！
そして完全に堕ちるのです！」
「やめろ、あ、熱くてくっさい、ザー汁なんて、ぃ、いらないの！
これ以上、穢さないでーーーーーーツツツ！」
（どぴゅっどっぴゅっ射精して♥ドスケベ女の子宮に
淫魔ザーメンくらしゃぃぃぃッ♥）

「ぶっっひょぉ――――――――――――――――――――――――ッ♥
ブリッブリッの子種汁キタッ！あづい♥ぶひっおおおおっいぐ♥
イグイグイグイグッグウウウッ♥イきながらいっぎゅ♥
おっひっーもっとぉ♥ひぐうううっ――――♥キモディィ♥
ぶひょお♥ブヒブヒィィンッ♥ぶーぶひんっ♥ブヒッ♥」
「やっと素直になりましたね、貴女は正義の騎士ではありません
快楽溺れ、国も主も騎士の誇りも捨てた淫乱な牝ブタなのです
その証拠に淫紋は成長し、さらに淫魔化が進みました」
「ぶひゅ♥ヂガヴ！わだしはぁまもる！あいりすしゃみや！
ブヒッ？ぢんぽぉ♥ザーメンもっとぉ♥ぶっひいいいいんっ♥」
「まだ抵抗をする意思があるとは、驚きました…
それでは脳を直接犯し、わたくしへの絶対的な忠誠心を
植え付けて差し上げます」

「ぶひょツッん？脳味噌にキタッ！
触手おちんぽ様が脳みそ犯じでる♥
ノヴミゾ弄られるのぃぃ♥きもぢぃぃブヒィィン♥
ブヒッ！黒い意思が流れ込んでぐる♥溢れりゅ♥
いぐイッぐ♥大切な思いが！今までの私が！
消えでいぐぅぅッ♥書き換えられてイグヴ♥
リリムゥ♥私が仕えるべき主さみゃあっ♥
わたじはぁチンポ狂いのおおおおおっ、牝奴隷戦士ィィ♥
おっおぉお、違う、違わないッ！おほぉ♥リリム様ァ♥
んあ、あいげず！ダズゲデ！ぶひょおおほほほッオ♥
あだままっ白になりゅっ！はじげるぅぅぅぅぅッ！
あぁあぁあぁあぁアアアアアアアアアアアアア！」

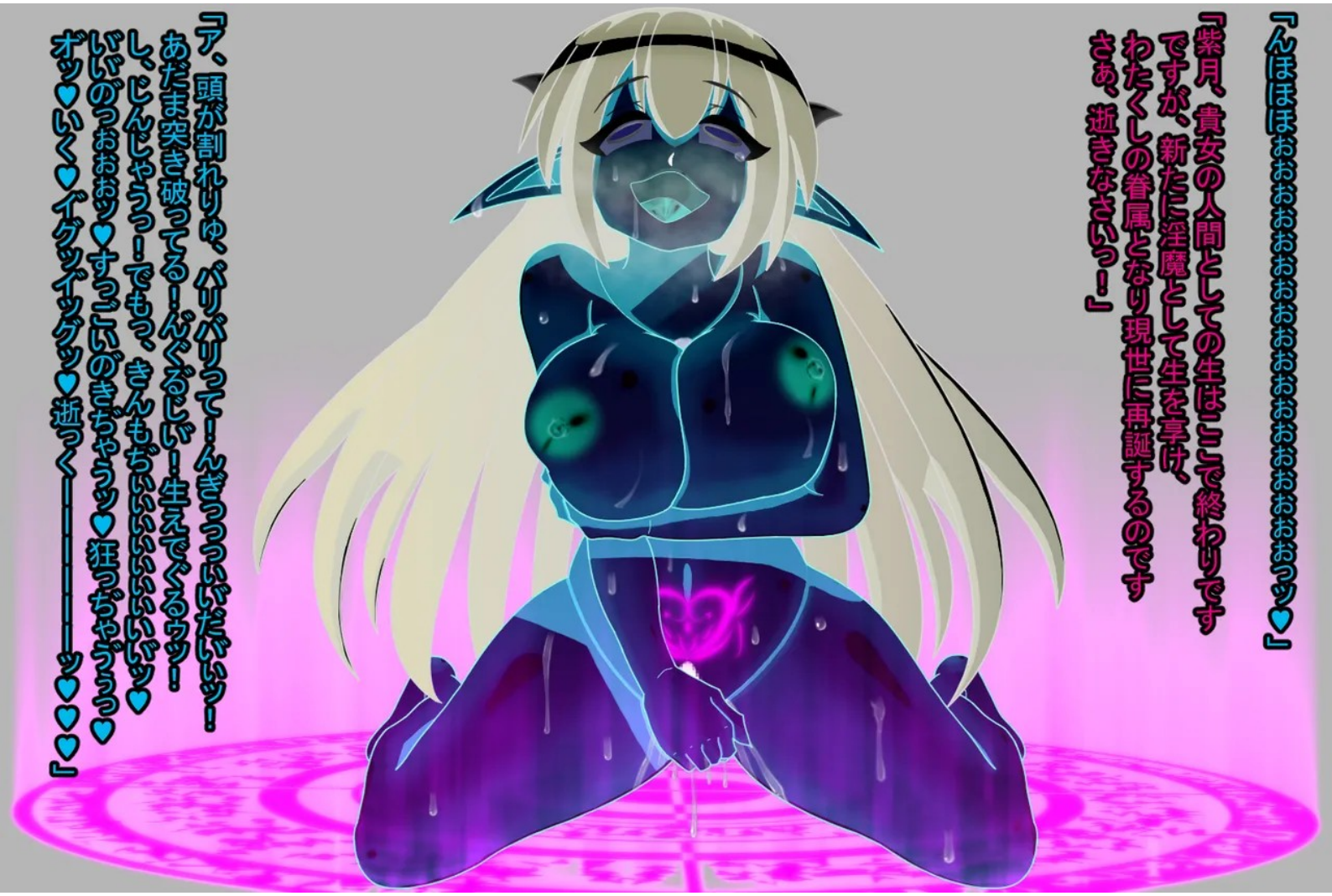
「……
あれぇっ～～～わだしはだりぇ？わたちはぁ？
おるでとる？きし？あい…り…す？りり……む？
りりむ！リリムッ！リリム様ぁ～♥私のご主人様ァ♥
そうよ、私はぁご主人様の肉人形♥
ご主人様をお守りする牝ブタ肉奴隷戦士ぃ♥
えへへ～ッ♥私の全てはぁリリム様のものぉ♥
おへっ♥あへぇっ～～～～～～～～～～～～～～～ッ♥」

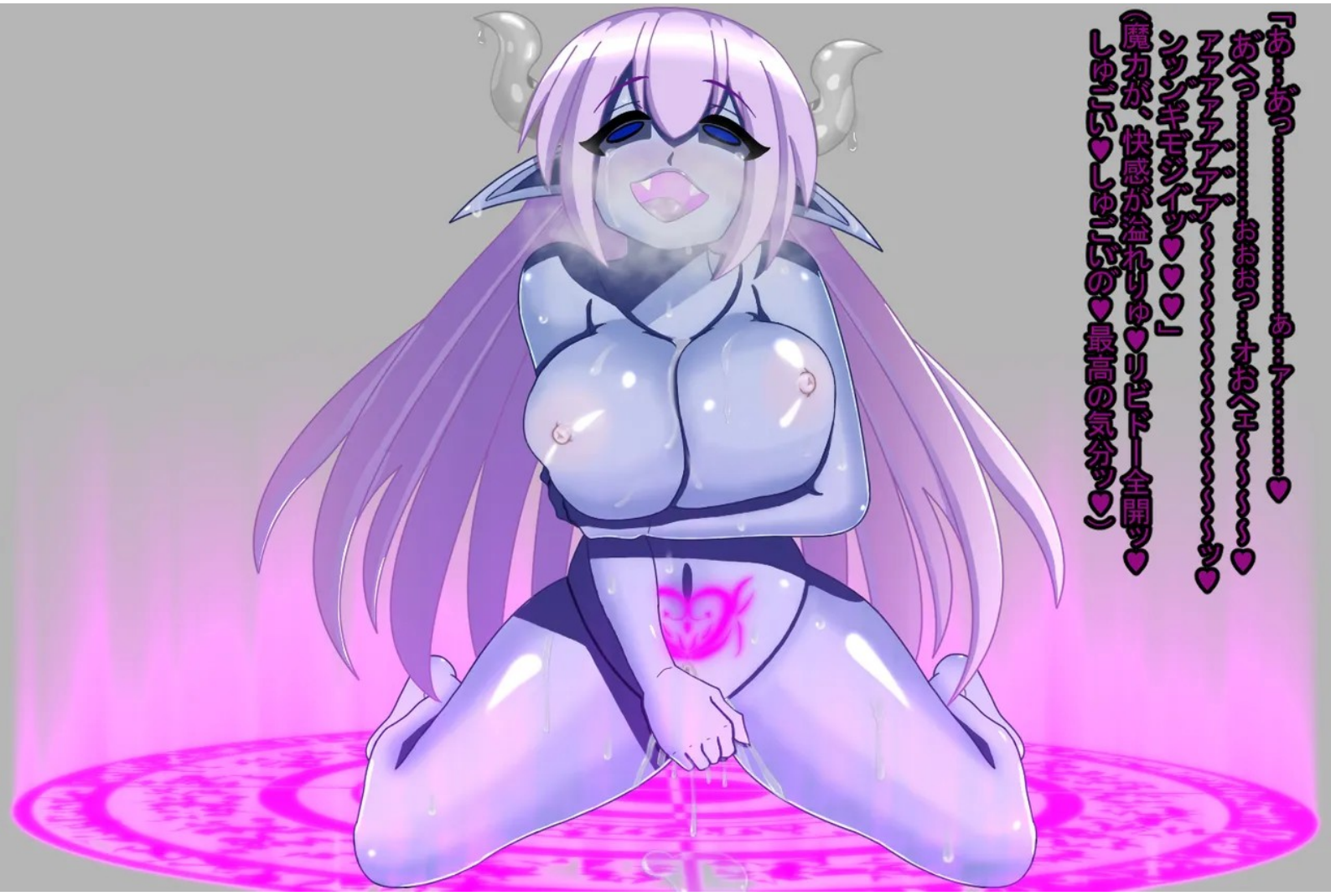
「貴女は何者ですか？」
「ご主人様であるリリム様をお命掛けでお守りするぅ誇り高きぃ牝ブタ肉奴隷戦士でぇすぅ♥ご主人様のために生きぃ、死ぬことが私の悦びぃ、存在意義でーす♥何なりとぉお申し付けくださぁい♥」
「頼りにしていますよですが、まだわたくしのしもべとしては、未熟にして不完全…大丈夫、わたくしが導いてさしあげます」
（洗脳調教はできているようですが、ここまでして完全に淫魔化しないとは…これは、想像以上の逸材ですねククッ、完全に善悪が反転し、魔へと堕ちたときが楽しみです♥）
「ありとうございますぅ！この身に余る光栄で～す♥必ずやご主人様に相応しいしもべになってみせますぅ♥」

「全てを捨て、この淫魔女王リリムに
魂を捧げることを誓いなさい
そして自ら痴態を晒し、秘めたる淫慾を解き放って
人間というくだらない殻を破り捨てるのですっ！
さぁ、始めなさい」
「わかりました、ご主人様ぁ♥
では、触手おちんぽに完全敗北した女の
絶対服従宣言公開オナニーショーをご覧ください♥
わたしい、紫月はオルデトル国と姫騎士アイリスを裏切り、
騎士の誇りもなにもかもぉ、ぜぇ～んぶ捨てま～すっ♥
偉大な淫魔女王リリム様に忠誠を誓い、
その証としてぇ、私の魂を私の全てを捧げますっ♥
わたしはぁ、人間を完全に辞めて偉大なるリリム様に
ご奉仕するエッチな淫魔になりますぅ♥
唯一にして絶対のご主人様の触手ちんぽさえあればいいのぉ♥
ぶっとくて熱い触手チンポ大好きっ♥」

「アッ♥クリトリスっ、ぎゅって摘まむのいい♥
潰れりゆぐらいギュって♥んぎッ！潰れるッ！
潰れろオーーーッ♥んぎっっつ、気持ちィーーーーッ♥
あぁぁん♥今度はぁぐちゅぐちゅって♥グチュグチュ♥
メス穴ッほぐしてホジホジするとぉ！指が子宮口にっ届くっ♥
あぁぁん♥イイィィッ♥気持ちいッ♥
もっと奥にぃ！子宮の中にッ！
もっっどぉ！こねくり回すッ！抉るの！
おひぃひっ♥はぁぁあぁんッ♥
ヴオッ♥し、子宮ッ、身体が熱い！あついっ！蕩けぢゃうッ♥」
「とっても淫らでエッチです♥その調子ですよ
眠っていた体内の魔淫子が活性化してきましたね
完全に覚醒すれば、素敵な淫魔になれますよ」

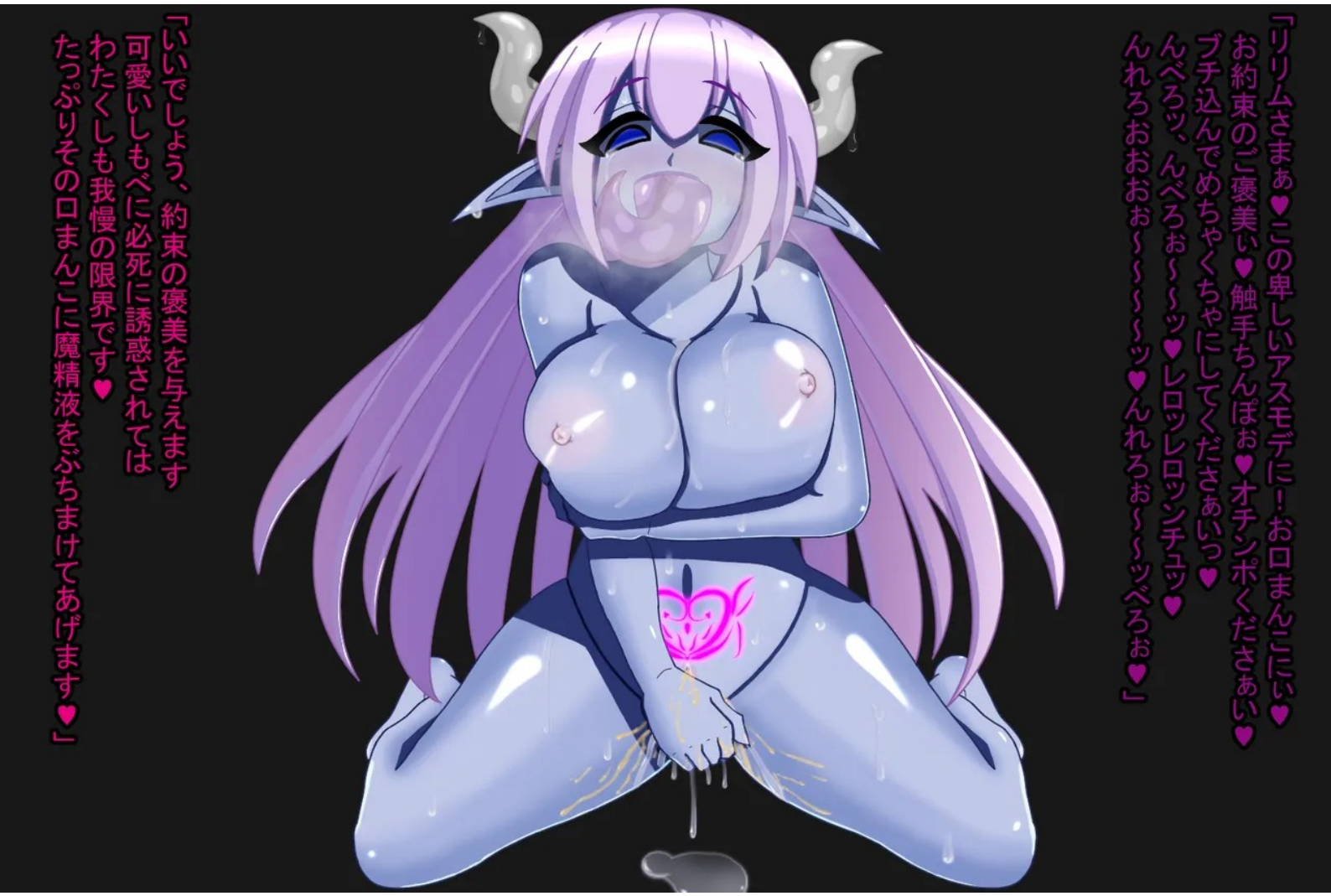
「ご主人様ッ♥リリム様ぁ♥上手に転生できたらぁ
ご褒美ッ！お口まんこにぃっ♥触手ちんぽくださいっ！
く、ロマン疼くんですぅ♥お口の処女も奪ってくださぁい♥
わたしぃ、とっても上手なんですよぉ♥
見てくださいっ！ご主人様に教えて頂いたこの舌使いっ♥
んべろっ♥べろっ♥れりぉお♥レロレロッレロンッ♥
じゅるっ♥むじゅるっ♥むぢゅッぢゅるンッ♥」
「まったく、欲張りなしもべですね
いいでしょう、約束です」
「むじゅッ♥嬉しいですっ♥じゅるっ♥
じゅるんっぽんッ♥じゅぼぼっっっっッ♥
おほっ♥す、すごいのくりゅ♥きちゃうッ！」


「んほほほおおお


「あ…あっ……あ…ア……♥
おぐっ……おおおっ…オおへェ～～～～♥
アアアアアアアアア～～～～～～～～～～ッ♥
ンッンギモジイッ♥♥♥」
（魔力が、快感が溢れりゅ♥リビドー全開ッ♥
しゅごい♥しゅごいの♥最高の気分ッ♥）

「これで貴女の全てはわたくしのものです、紫月
貴女はもう人間でもオルデトル国の騎士でもありません
町を破壊し、人間を蹂躙して淫欲を貪る邪悪な淫魔
そして、この淫魔女王リリムの眷属、しもべです
生まれ変わった貴女に相応しい新たな名を授けましょう…
アスモデ…貴女の名は、美醜悪姦邪アスモデです」
「美醜悪姦邪アスモデ…私の真名♥ありがとうございますっ♥
アスモデは、ご主人様に仇なすものを滅ぼす変態牝孔奴隷戦士♥
そして、ご主人様の性戯具、絶対服従の愛のしもべですっ♥
ご主人様への愛はエターナル♥永遠不滅のエターナルラブッ♥
あはぁあぁあぁぁ♥嬉しすぎてイグッ♥イっちゃうっ♥」

「貴女はただの淫魔ではありません
魔族の中でも上位種である角付きの淫魔、
高級淫魔です
主としてとても誇らしいですよ
これからは、人間では味わえない快楽の世界が
待っています」
「やったぁ！ご主人様に褒められちゃったぁ♥
気持ちいいこと大大大好きッ♥
人間なんか辞めてよかったぁ♥」


「リリムさまぁ♥この卑しいアスモデに！お口まんこにぃ♥
お約束のご褒美い♥触手ちんぽぉ♥オチンポくださぁい♥
ブチ込んでめちゃくちゃにしてくださぁいっ♥
んべろッ、んべろぉ～～～ッ♥レロッレロッンチュッ♥
んれろおおおぉ～～～～ッ♥んれろぉ～～ッべろぉ♥」
「いいでしょう、約束の褒美を与えます
可愛いしもべに必死に誘惑されては
わたくしも我慢の限界です♥
たっぷりその口まんこに魔精液をぶちまけてあげます♥」

「んべろっべろっおぉおおッ♥ベロッ、ベッロオンッ♥
ペロッ、ぺろぺろんべろぉおおんッ♥レロオーーッ♥
ンはぁあぁあぁあぁぁあぁぁあっぁあ～～～んッ♥
おいひぃ♥ぢゅぶっ♥おちっんぽっ♥じゅぶぶっぅ♥
じゅぷん♥ぢゅぱっぢじゅっぱっ♥ぢゅぷんっ♥
じゅぶっじゅぶぅ♥ぶじゅぢゅるじゅ♥いいのっ♥
この味ッ、この臭い♥舌触りがッ！最高おジ♥
じゅぼぼっん♥ちゅるゅッ♥ぢゅぼん♥んぢゅるっ
ずぼぼっ♥おいひぃ♥じゅぼんっ、んぢゅるるぅん♥
ンヂュ、ヂュュュュルルルッ♥イインッ♥」

「んっ、ぷっはぁ～～ッ♥口まんこだけじゃなくてぇ♥
オッパイ♥おっぱいマンコも使ってッ♥
パイズリ♥パイジュリィ～～～ィッ♥
モチモチのお乳まんこで、触手おちんぽ様を包み込んでぇ♥
こねこねしちゃいまぁす♥こねぇこねぇこねぇこねぇっ♥
んきもじいいッ♥いいのっ！感じる！感じちゃう♥
お乳まんこの中でおちんぽっ、擦れるのぃぃの♥
あはぁ♥ビクンビクンッって！我慢汁いっぱい♥
ザー処理奴隷のパイズリで感じてくれてますぅっ♥
あぁぁぁんっ♥私もとっても感じちゃってま～すぅ♥
気持ちよしゅぎなの♥乳首ッ、バッキバッキに
フル勃起イイッ――――――♥」

「今度はぁ、口まんと乳まんの両方を使ってえご奉仕い♥
れろれろっれろ♥んべろっっれろぉおおッ♥
じゅるるっじゅぽんっ♥じゅぼぼぼんっちゅるんッッッ♥
舌の全部を使ってなめなめっ♥ナメナメぇ～～～ッ♥
レロオオ、ブチュンズジュンボッ♥っずぢゅりゅるうううう♥
ぎゅぼっ♥ギュボンっ♥ちゅぎゅぎゅぼんッ♥ヂュジュボオオッ♥
んぷぅッ♥下品なデカ乳まんこをぉ
ずりゅっずりゅっ～♥ぬちゃっぬぢゃっ～♥
擦りあげりゅのがいいの♥感じちゃうの♥
昇ってくるっ！きちゃウッ！漏れ出ちゃうッ♥
ミルクタンクから特濃ミルクウウ～～～～ッ♥
イぐッ♥乳汁ッぷちまけながらイぢゃうッッッ♥」

「ブフッ、まるで噴水のようです
あんっ♥特濃ミルクで汚されてしまいました
甘くてとってもエッチな味がします♥」
（おほおっほぉ～♥ごめんなしゃい、ご主人様ァァ
でも射乳止まりゃない！ぎもちいいのおおおッ♥
ぴゅっーぴゅっーって！乳汁っ♥特濃みりゅぐぅ♥
でるでるでるでるでるでるでるでるでるでるデルッ♥
おひぃっ！尻がムズムズしゅる！
オンギィィィィッ！突き破ってくるぅッ！
おほッ♥生えでぐりゅ！この痛みいいっ♥
いだいのギンモヂィィィィッ♥）
「見事なバキュームフェラとパイズリです
肉奴隷の超絶技巧でイくっ♥
一滴残らず飲み干しなさいッ♥」

「ごく♥ゴクゴクッ♥ごきゅん♥ごくんゾッ♥
ずるっずるるうぅツ～ずりゅるるッ、ずぞっずぞおおおお！
ずずッじゅるおいじい♥ぢゅぞぞッぢうるうるうぅぅ♥
のどこしっぃい♥んごきゅ♥ごきゅごきゅん♥
ゴギュゾッ♥っぱぁ～しっぽが生えちゃいましたぁ♥
ご主人様ぁ♥見てくださぁい♥」
「とても似合っていますよ
男を惑わす妖艶な尻尾です
淫魔に転生したばかりで、お腹が空いているでしょう？
たくさん食べて早く成熟した淫魔の躰になってくださいね」
「はぁい♥むちゅッ♥んちゅっんっぱぁ♥
んちゅ――――――――ッ♥
ぢゅ――――――――ゾゾッ♥♥♥」

「そのオークはもう用済みです
精気を搾りつくして処分しなさい」
「はぁ～い、ご主人様♥
んっしょっ、あぁ～んっ♥
ご主人様ほどじゃないけど中々のおちぽね♪
子宮の奥まで届いてイイッ♥どう私のオマンコは？
ヒダのひとつひとつがうねっておちんぽを刺激してぇ
膣圧でがっちりくわえ込んで離さないんだからっ！
天にも昇る気持ち良さでしょ？
んっあー気持ちいいい♥」

「んあっ？嘘でしょ！
挿れただけでイったの？このオークチンポっ！
リリム様の命令もろくにこなせない能無しのうえ、
早漏だなんて救いようがないわ
このゴミ屑！お漏らしチンポっ！
悔しくないの？意地をみせなさい！
もっと私を楽しませなさいっ！」
「ウォオオオオオオゥッ」
「あはッ♥カチカチのデカチンになったッ！
そうよ、それでいいのっ！
悔しかったら私を孕ませてみなさいッ！
早漏精子じゃ無理だと思うけど
いくわよ、疾風怒濤の腰使い♥高速ピストン運動ッ♥」

「ほらっ、駄チンポからもっとくっさいザーメン出しなさいッ！
ザー汁を排泄するしか能がない役立たずなんだからっ！
んっあぁぁぁ～～～～～～～～～～～～～～ッ♥
ギュッって締め付けながらゴシッゴシッって
雄を下敷きにして犯すの気持ちいいっ♥
アハッ♥ビクビクッっておちんぽっ脈打ってる♥
もう射精するのね♥いいわっ！
子宮に熱い雄汁ッ♥ドビュビュッってだせ♥
白いのだせ♥イき果てろッ♥ほらっ、逝けッ！」

「グォオオオオオオオオオオッ」
「おほぉおおおおぉッ♥キタキタァーーーーッッ♥
駄ちんぽからクソザコ精子でてりゅうっ！
イグイグイグイグイグイグウウウヴッッッ♥
イイィ♥ぎもぢいいいい～～～

「オッ――――――――――――――ッ♥
オホッおおおおおおおおおっ！イグイグイッツグッ♥
淫紋疼ぎまぐるっ！ぎいもちいいいッ♥
っほんぐんおおおおおおおおっほおっ～～～♥
お腹、ザーメンタンクぅっ♥子宮満タァン♥
んへっあッ、あづい！イ、淫紋灼けるぅツツツ！」
「……」
「きれいに生命（いのち）まで喰尽くして
満たされたようですね
己の欲望のために他者の生命を屠るのは、
とても気持ちの良いことなのですよ♥」

「最後の変態が始まりましたね
見せなさい！アスモデ！
淫魔としての真の姿を♥」
「アヘェッ～～～～～ッッッ♥キモヂイイィンっッ♥
淫紋アクメでイックゥゥゥゥゥゥゥゥヴッッッ♥
イイィグヴゥゥヴッ♥イギィイィィィィィッ♥
ギモヂいィィィィイイィィィィッィィッ♥
淫紋イギィィィィィイイイイイインッッッ♥」
（変わってる！再構築されてるっ！今度こそ本当にッ！
私の全てが、リリム様のしもべとして相応しいものに♥）

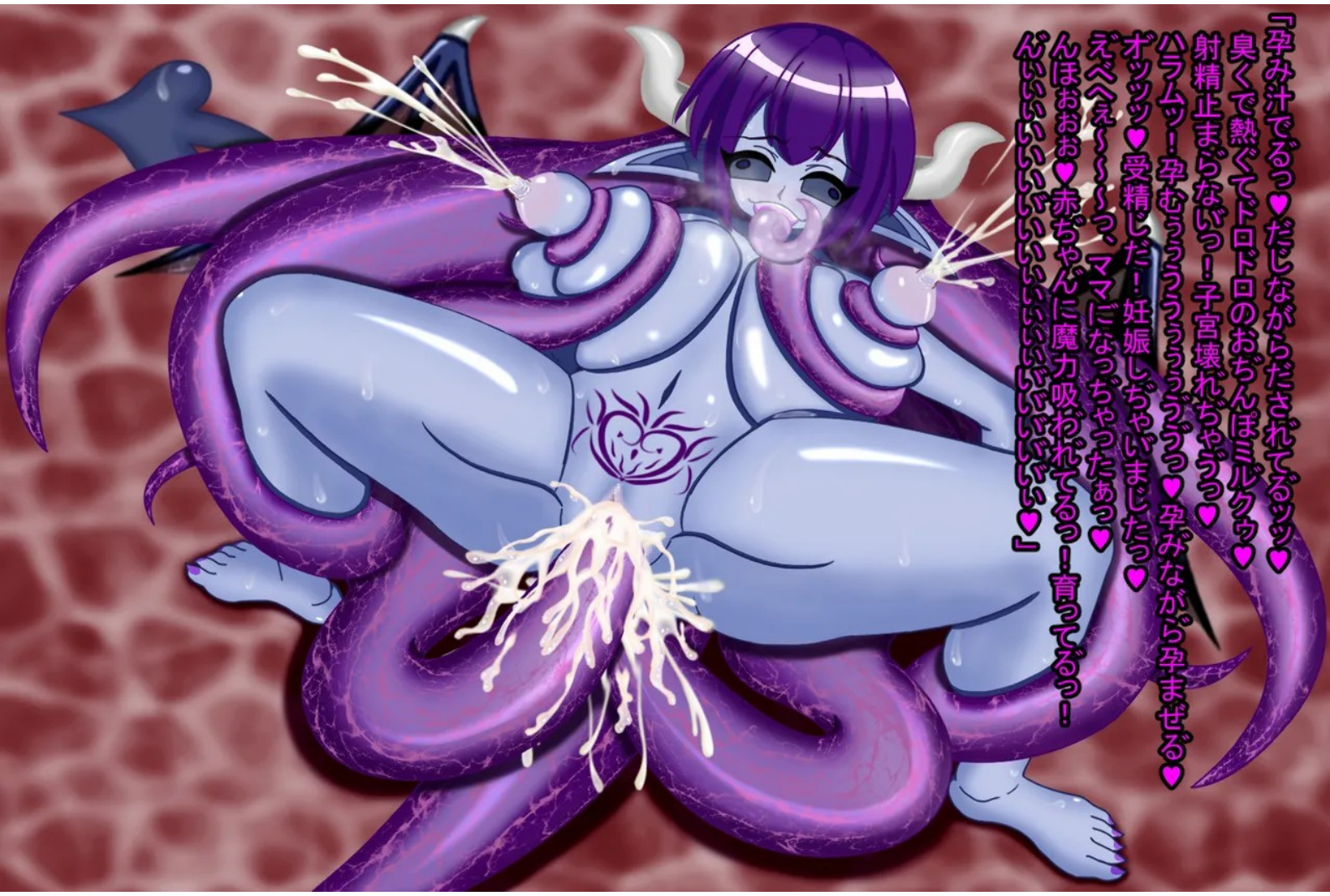
「お待たせいたしました、ご主人様♥
これがご主人様の忠実なるしもべ
美醜悪姦邪アスモデの真の姿でございます」
「漆黒の魂に蠱惑的な美貌、そして禍々しい魔力
もはや人間だった頃の面影は、微塵もありませんね
どこからどうみても立派な淫魔ですよ
これこそ、わたくしが求めていた理想のしもべです」
「光栄です、ご主人様♥
ですが人間であった頃の私は、愚かにもご主人様に
暴言を浴びせ、愚弄し、刃を向けるという
過ちを犯してしまいました
度重なる愚行の数々、誠に申し訳ありませんでした
その償いとしての罰をお与えください♥」
「お仕置きをせがむとは、まったく…
いいでしょう、オルデトル国を攻め落すには兵が必要です
自らの触手で自らを犯し、苗床となって
百の魔物を出産するのです」
「かしこまりました♥
過去の償いと未来永劫の忠誠の誓いの意を込めた
絶対服従のポーズでセルフ種付出産を始めます♥」

「ご覧ください、リリム様♥
メス穴とクソ穴が丸見え絶対服従ポーズっ♥
すごく惨めで哀れな姿なのに興奮しちゃう♥
ドキドキって胸の高まりが治まらない♥濡れるっ♥
「フフッ、とてもお似合いですよ
変態牝奴隷に相応しい無様な恰好です♥
まんこもアナルもひくついてちんぽに媚びていますね」
「はぁぁん♥ご主人様の視線を感じる♥
侮蔑の目で見下されて嘲笑されちゃってる♥
ゾクゾクする♥感じちゃう♥
もっともっと見てくださいっ！
誇り高き正義の騎士だったのに、触手ちんぽに完全敗北した
浅ましい淫乱マゾ女の末路♥
もう我慢できないッ！イグッッ♥」

「視姦だけ絶頂するとは、真正のマゾブタです
肉穴もグチャグチャになって、準備万全のようですね」
「ぶひぃんっ♥準備万全ですっ！
触手ちんぽで子宮をぐちゃぐちゃにかき回して
淫魔ザーメンドクドク流し込みますッ♥
たくさん魔物を孕んで生んでみせますっ♥」

「ンア～～～ッ♥極太触手チンポ挿入ッ！
ゴリゴリって子宮壁を押しのけて子宮口をノックしちゃうっ♥
ズボズボ擦り上げで子宮の奥一番深いところぉ！
赤ちゃんの部屋をメチャクチャに掻き回すの♥
触手おちんぽ感じるッ♥蕩けちゃヴ♥
まんこもおちんぽに負けるなっ！反撃よぉ！
膣ヒダのひとつひとつでちんぽにギチギチに絡みついて
膣圧で絞り上げるのよっ！
擦れるたびに突かれるたびに快感が昇ってくるッ♥
ぎもじいいいッ♥おまんこ壊れちゃうッ♥」

「おっぱい♥ミルキュタンソックっ♥
触手おちんぽでムギュッっと締め上げるどぉ
オホオオオ――――ッ♥いいいッ！気持ちッ♥
あぁぁぁぁあぁぁぁぁあっ、チチニーもぎもじいいんっ♥
もぅ限界！
膣に出すっ！出す出す出す出ず出ず出ズウッ！
射精すぅっ！自分で自分を孕ませるぅっ！
おっぱいも射乳しちゃうぅぅぅッ！
イくいクイクイクいクイグくクイクイグイキュッ♥
まんこ♥アナル♥ちんぽ♥おっぱい♥
ギモヂイイとこじぇんぶ、イィィッグウウウウッ♥」


「孕み汁でるっ♥だしながらだされてるッ♥
臭くて熱くてドロドロのおちんぽミルクゥ♥
射精止まらないっ！子宮壊れちゃうっ♥
ハラムッ！孕むぅぅぅぅぅぅぅづづっ♥孕みながら孕まぜる♥
オッツッ♥受精した！妊娠しちゃいましたっ♥
えべへぇ～～～っ、ママになっちゃったぁっ♥
んほぉおお♥赤ちゃんに魔力吸われてるっ！育ってるっ！
んいいい

「種付け完了でぇす♥ボテ腹妊婦になりまちたぁ♥
んっふ！んぶぶぅぅぅぅぅっ！
ヴオオッ！子宮で赤ちゃん蠢いてるぅっ！
おほほおおおおっ♥もう生まれるのね♥
慌てなくても大丈夫よっ
きちんとママまんこからひりだしてあげるっ♥
ひっひっふぅぅぅぅぅ～～～んッ♥」
「フフッ、見事なボテ腹です
その淫靡な腹からオルデトル国を滅ぼす
魔の尖兵を排泄するのですね♥」

「いぎっぎいいいいいいいいいいいぎんんっ！
子宮の中で赤ぢゃん、暴れてるッ！
お腹、子宮が壊れるっ！破れるッ！破裂じぢゃウっ！
じぎゅうくるじいっ！いだいじんじゃうっ！
でもいいの♥この痛みが苦しみが気持ぢいいの♥堪らない♥
いいぎぃい♥赤じゃんに大事などごろ犯されながらイクッ♥
イクいクイグイクイくイッグゥウウヴッ♥」
「自身の痛みや苦しみからも快楽を得るとは、淫魔の鑑です
それとも骨の髄までマゾ体質なだけなのでしょうか？
どちらにせよ、その調子です
あと少しで記念すべき第一子の誕生ですよ」

「いぎ、おひいいいいいいいいいいんっ！
膣口までキタっ、もう少しよっ！
ミチミチでギチギチのおちんぽ穴から
ブリブリひり出してあげるかりゃ♥
ひっひっふーひっひっふーーーーーーっ！
ずりゅずりゅ膣道擦ってくだってぐるっ！
妊娠マンコごりごり押し広げながりゃ這い出でルッ！
おおおおおおおおぎもじ♥
陣痛アクメ出産アクメ最高おんっっっ♥
ひっひっふーひっひっふうううううゾっ！
ひりだしながらイグイグイッグうううううウッ♥」

「おほぉッおおおおっ♥いっイぐいいいいいんッ♥
生まれだっ！わたひいのかわいい赤ちゃん♥
あはぁあん♥心もまんこもキュンキュンするッ♥
しゅごく幸せ♥幸福で満たされでイくっ♥
おへぇぁ～～～っ♥これがメスの悦びなのねぇ♥
おひょっ、また生まれたいって、子宮で暴れ回ってリゅ！
待っでで、ママがんばりゅから、たくさん生んであげりゅからァ♥
だ・か・らぁ♥ガバガバの出産まんこ、滅茶苦茶に犯じでぇっ♥
あひゃひゃひゃひゃひゃひゃひゃひゃひゃっッ
もっと犯すっ♥もっと孕むっ♥もっどもっど生みまぐるぅ♥
あっはぁ～～～～ァ♥幸せぇっ♥♥♥」

「ご苦労様です
寄生型の可愛らしい魔物がたくさん生まれましたね
どの子も魔力が高く、いい兵になるでしょう
やはり母体が優秀なのですね」
「お褒め頂き光栄です♥
どの子も自慢の子供たちです
必ずやご主人様のお役に立ちますわ」

「次の命令です
オルデトル国の姫騎士アイリスを捕えてくるのです
この百年間、この器で少しずつ力を蓄えてきました
本来の力には、まだ遠く及びませんが、
国をひとつ滅ぼすには十分です
ですがこの器では、今の力ですらその負荷に
耐えることができず、肉体が崩壊してしまいます
それになにより醜い
勇者の末裔であり、天才的な剣と魔法の腕を持ち、
絶世の美貌も兼ね備えた最強と名高い姫騎士である
彼女こそが、わたくしの器に相応しいのです
守るべきだった国も主も国民も裏切りなさい」
「かしこまりました、ご主人様♥
あの誓いの言葉に嘘偽りはありません
どんな命令でも従います♥私の全てはご主人様のものです♥
それにあんな国やアイリスになど、何の未練もありません
それどころか町を破壊し、人間どもを蹂躙できるなんて…
想像しただけでイってしまいそうです♥」

「油断ならぬ相手ですが、今のアスモデであれば
ほぼ互角に戦えるでしょう
ですが用心に越したことはありません
貴女の子供たちも数匹連れていき、
騎士団員や国民に寄生させ、間者として
紛れ込ませなさい
オルデトル国を内側と外側から破壊するのです」
「とても素敵なお考えです♥
私の子供たちが、早速ご主人様のお役に立つのですね♥
それでは行って参ります」

「久方ぶりの帰郷のはずなんだけど、何の感慨もないわね
なんでこんな国を必死に守ってたんだろ
人間だった頃の私は、なんて愚かだったのかしら
さてと…まずは、可愛い子どもたちの宿主を見繕って
間者に仕立て上げないと♥」

「ご主人様のご命令通りに間者も用意できたわね
それにしても、子供たちみんなが立派に成長して
ママ、感激しちゃった
いけない、感傷に浸っている場合じゃないわ
次はアイリスを生け捕らないと
そうなると…次の目的地は国城ね」

「止まれ、そこの淫魔！
貴様、どうやって破魔の結界を破り、この城に侵入した
目的は何だ、応えろ！」
「アハッ、見つかっちゃた☆
どうでもいいじゃない、そんな細かいことは
もぉ～お兄さん達、鉄剣なんか振り回してないで
私といいことしない♥溜まってるんでしょ？
それに、せっかく極上の淫魔が目の前にいるんだから
下の剣で相手をするのが礼儀ってものよ
まったく、失礼しちゃうわっ！」
（精気に満ちた美味しそうな雄ども…
アアン♥堪らないわ♥おまんこ疼いちゃう♪
どんなプレイで愉しもうかしら？
それにしても、誰も私が紫月だったことに気が付かないわね
酷いわ、苦楽を共にした仲間だったのにな～
クスッ、でも当然よね、ご主人様のおかげでとってもエッチな
淫魔に生まれかわったんだから♥）

「ふざけるな、調子に乗りやがって
そんな挑発に乗るとでも思っているのか
オルデトル国騎士団を舐めるな！
覚悟しろ、貴様はここで処分するっ！」
「んふ、ヤるき満々♥
バイオレンスなプレイがお好みなのね♥
血の気の多い男は嫌いじゃないわ
さぁ、遊びましょう♥」
（城内で騒ぎを起こせば正義感の強い姫騎士様は
すぐに駆けつけてくるはず…
その間、たっぷりと愉しませてもらうわよ）

CHARACTER

ステータスリスト
種族：人間
体力：B+
魔力：E−
攻撃：B+
防御：B
魔法：E−
耐魔：A
俊敏：A
知識：B+

才能溢れる若き女騎士 ~ 紫月 ~

数年前に漂流されているところを姫騎士であるアイリスに助けられた異邦人。
助けられる以前の記憶は、名前以外全て失っている。
アイリスとは友人関係であり、恩人で友でもある彼女を守るため、騎士となった。
魔法は使えないが、高い耐魔力と卓越した剣の腕を持ち、オルデトル国の
騎士団の中でも屈指の実力者。また、竹を割ったような性格と最年少の
騎士団員であるということから皆に妹分として可愛がられている。

CHARACTER
ステータスリスト
種族：魔族
体力：A+
魔力：A+
攻撃：B
防御：A−
魔法：A+
耐魔：A+
俊敏：A−
知識：A+
淫慾の隷属者 ~ 美醜悪姦邪アスモデ ~
淫魔女王リリムに洗脳調教を施され、淫魔へと転生した紫月の姿。
リリムを唯一絶対の主とし、その命令に忠実に従うしもべ。人間を蹂躙し、
己の慾望のままに命を貪ることを悦びとする邪悪な性格。魔族の中でも
上位種である角付きの淫魔（高級淫魔）。人間だった頃よりもほぼ全ての
能力が大幅に上昇し、魔法が使えるようになった。
得意とする闇魔法は、あらゆる希望を飲み込み、絶望を吐き出す。

CHARACTER

ステータスリスト
種族：魔族
体力：D+
魔力：C
攻撃：E+
防御：D+
魔法：C
耐魔：C
俊敏：C−
知識：C

捕食寄生者 ~ ベルゼビュート ~

美醜悪姦邪アスモデから生まれた寄生型の魔物。
幼体であるが、高い魔力と耐魔力を兼ね備えており、生半可な魔法では
倒せない。また、見た目によらず意外と素早く、性別はどの個体も♀である。
宿主に相応しい獲物を見つけると幻覚魔法で相手の動きを鈍らせる。その後、
複数で襲い掛かり、孔という孔から体内に侵入する。寄生された宿主の躰は
淫魔のものへと変態し、魂は成体になるための養分として、消化吸収さる。